

8 農村地域の活性化について

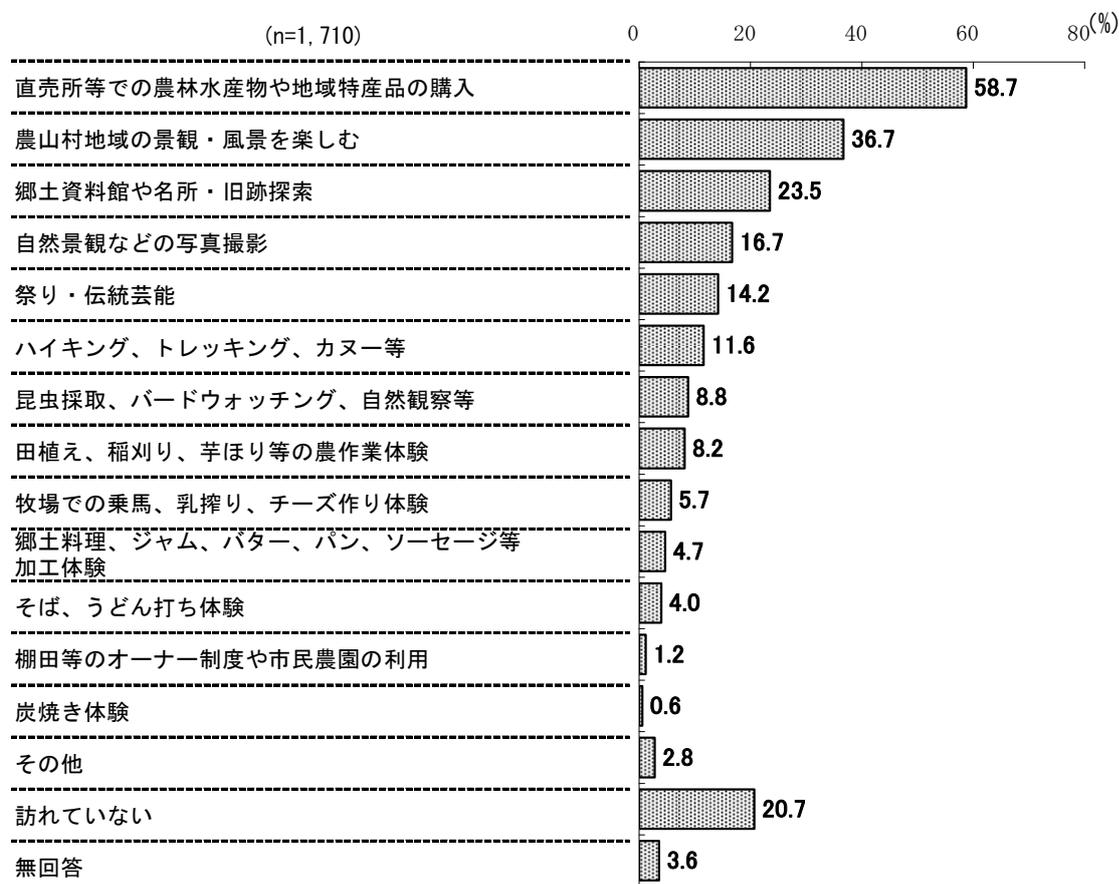
(1) 最近5年間で農村地域を訪れた時の体験

◇直売所での農林水産物や地域特産品の購入が約6割。

近年、農村地域では人口減少や高齢化等により農業生産活動や集落機能が低下し、耕作放棄地が増大するなど、農業・農村の持つ食料を供給する機能、災害防止などの県土の保全、自然環境の保全、良好な景観の形成、農村文化の継承等の多面的機能が失われつつあります。

問31 あなたは、最近の5年間に農村地域を訪れた時、どのような体験しましたか。
(〇はいくつでも)

<図表8-1>最近5年間で農村地域を訪れた時の体験



最近5年間で農村地域を訪れた時の体験を聞いたところ、「直売所での農林水産物や地域特産品の購入」(58.7%)が最も高く約6割である。これに、「農山村地域の景観・風景を楽しむ」(36.7%)が3割台半ば、「郷土資料館や名所・旧跡探索」(23.5%)が2割台半ばと続く。(図表8-1)

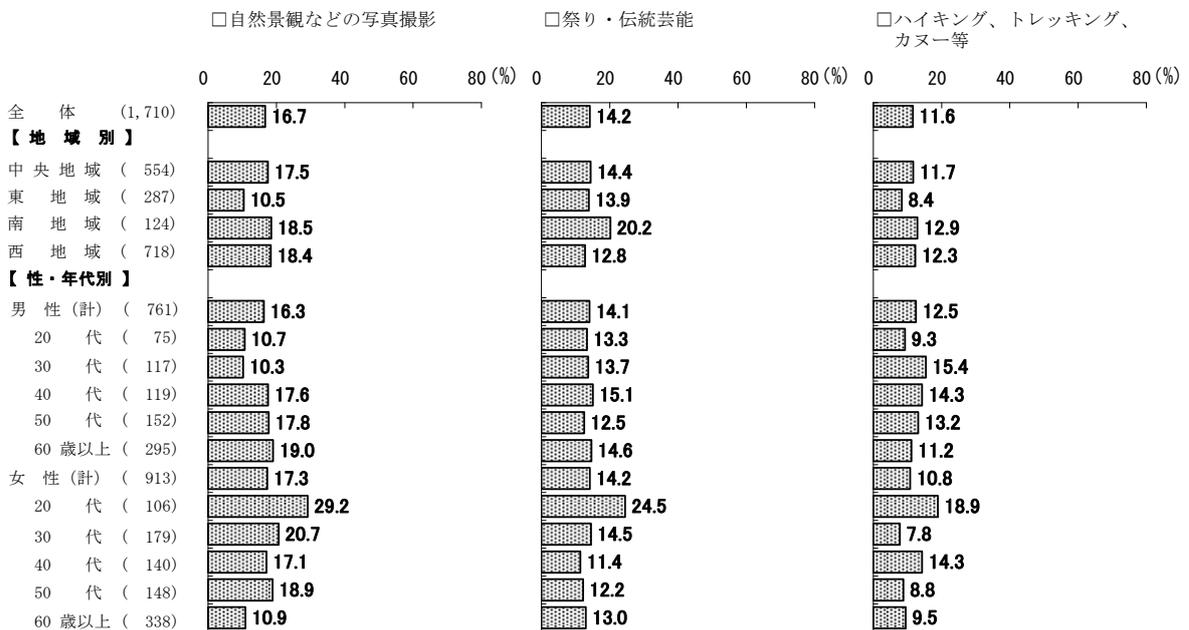
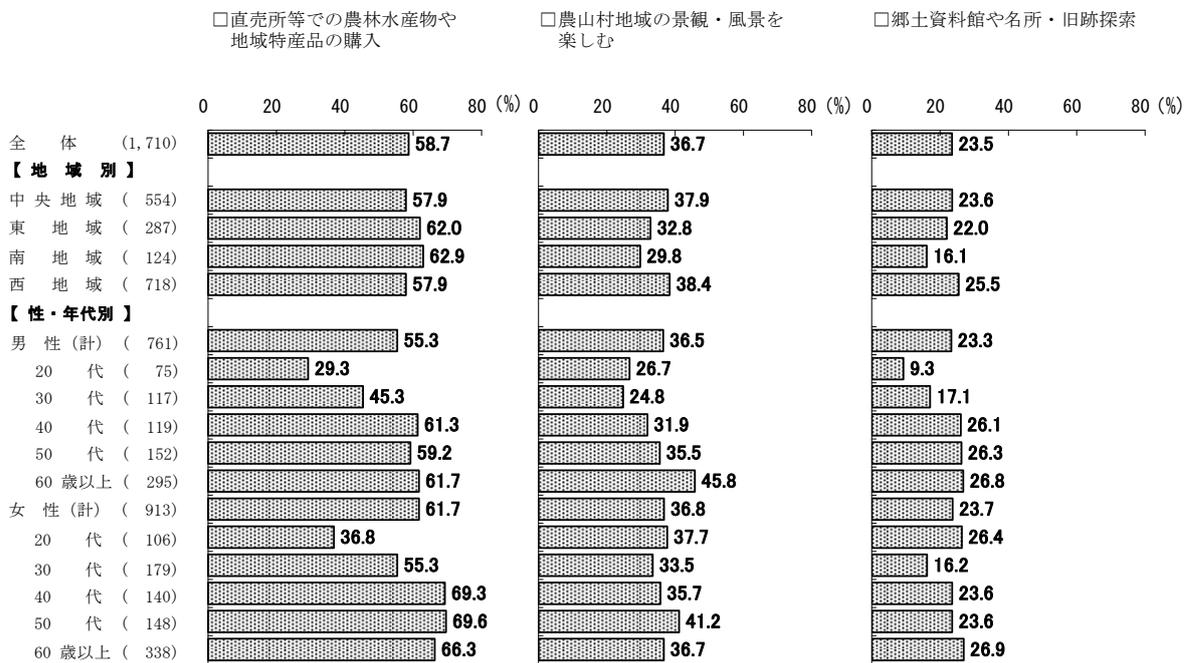
【地域別】

「直売所での農林水産物や地域特産品の購入」は、“東地域”(62.0%)、“南地域”(62.9%)で6割を超えており他の地域に比べて高くなっている。「農山村地域の景観・風景を楽しむ」は、“西地域”(38.4%)が最も高い。(図表8-2)

【性・年代別】

「直売所での農林水産物や地域特産品の購入」は、男性では、40代(61.3%)、60歳以上(61.7%)でそれぞれ6割を超え、女性では、40代(69.3%)、50代(69.6%)でそれぞれ7割である。「農山村地域の景観・風景を楽しむ」は、男性の60歳以上(45.8%)は4割台半ばで他の年代に比べ高く、また、女性の50代(41.2%)は4割を超え、他の年代に比べて高くなっている。「郷土資料館や名所、旧跡探索」は、男性の40代(26.1%)、50代(26.3%)、60歳以上(26.8%)とそれぞれ2割台半ばであり、女性では20代(26.4%)、60歳以上(26.9%)で2割台半ばと他の年代に比べて高い。(図表8-2)

＜図表 8－2＞最近5年間で農村地域を訪れた時の体験／地域別、性・年代別（上位6項目）



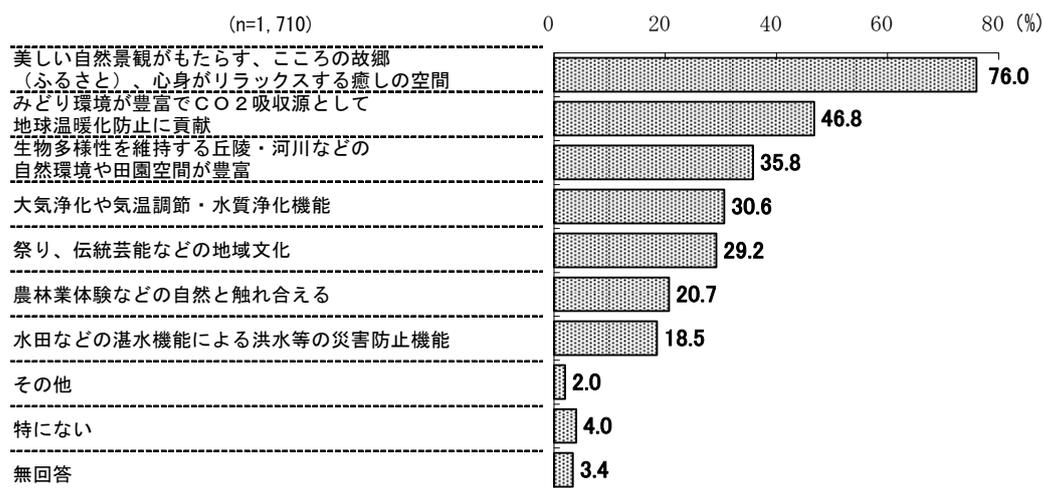
(2) 農村の持つ優れた機能・魅力

◇「美しい自然景観がもたらす、こころの故郷（ふるさと）、心身がリラックスする癒しの空間」が7割台半ば

問32 あなたは、農村の持つ優れた機能・魅力はどのようなものと考えますか。

(○はいくつでも)

<図表8-3>農村の持つ優れた機能・魅力



農村の持つ優れた機能・魅力について聞いたところ、「美しい自然景観がもたらす、こころの故郷（ふるさと）、心身がリラックスする癒しの空間」（76.0%）が最も高く7割台半ばとなっている。ついで、「みどり環境が豊富でCO₂吸収源として地球温暖化防止に貢献」（46.8%）が4割台半ばとなっており、「生物多様性を維持する丘陵・河川などの自然環境や田園空間が豊富」（35.8%）が3割台半ばと続く。（図表8-3）

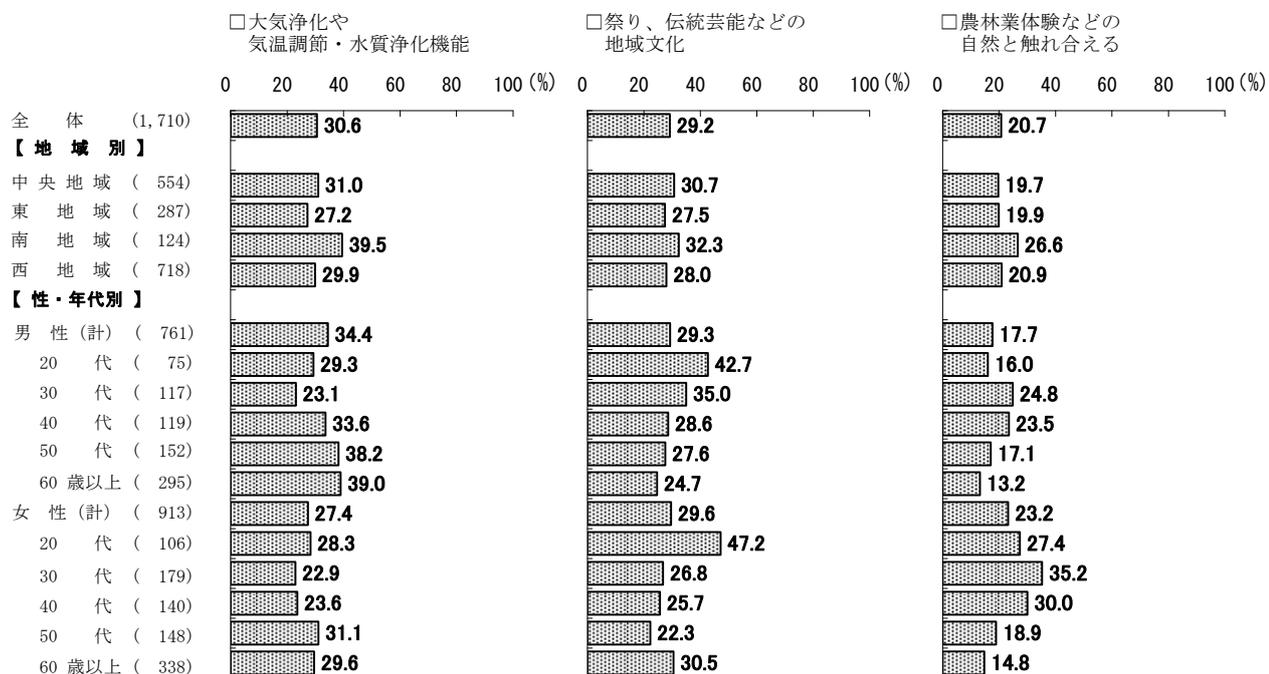
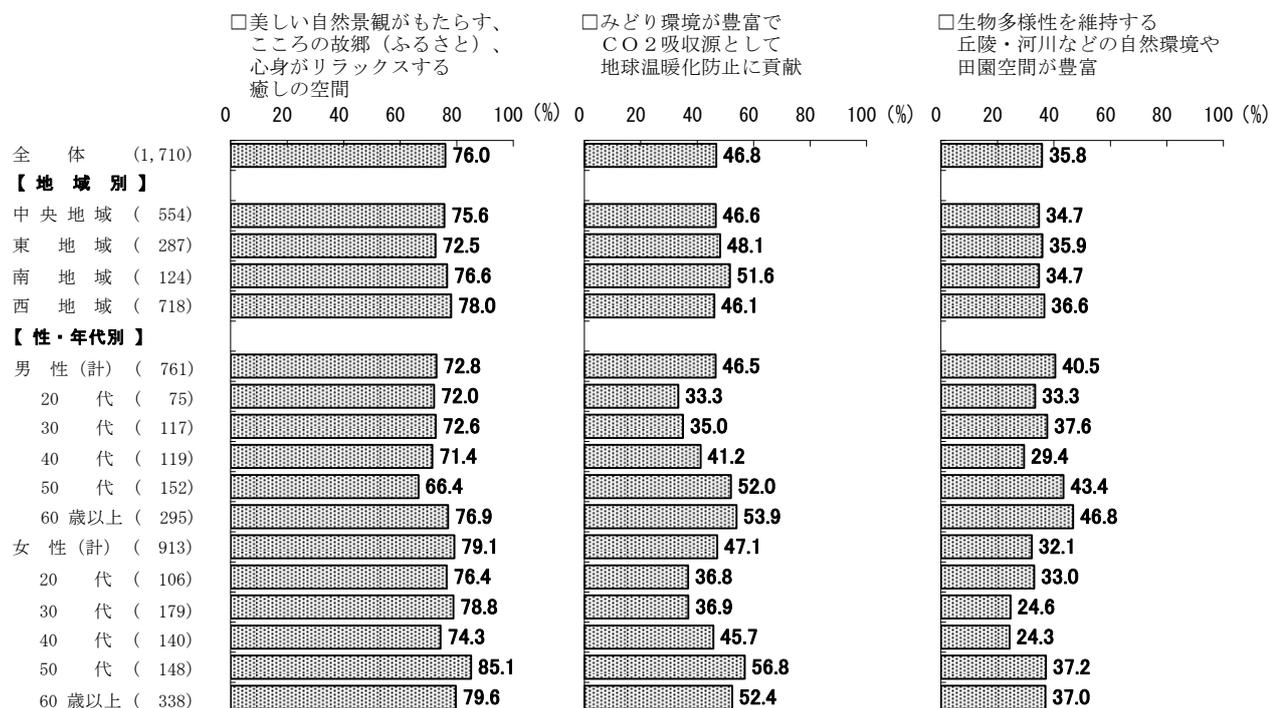
【地域別】

「美しい自然景観がもたらす、こころの故郷（ふるさと）、心身がリラックスする癒しの空間」は、「西地域」（78.0%）が約8割で他の地域に比べて高い。「みどり環境が豊富でCO₂吸収源として地球温暖化防止に貢献」に関しては、「南地域」（51.6%）が唯一5割を超えており、他の地域に比べて高くなっている。「生物多様性を維持する丘陵・河川などの自然環境や田園空間が豊富」に関しては、地域別に大きな差はみられない。（図表8-4）

【性・年代別】

美しい自然景観がもたらす、こころの故郷（ふるさと）、心身がリラックスする癒しの空間」は、男性の60歳以上（76.9%）で7割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。女性の50代（85.1%）では8割台半ばで他の年代に比べて高くなっている。「みどり環境が豊富でCO₂吸収源として地球温暖化防止に貢献」は、男性においては、年代があがるにつれて増加する傾向にある。また、女性の50代（56.8%）で5割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。（図表8-4）

＜図表 8-4＞農村の持つ優れた機能・魅力／地域別、性・年代別（上位 6 項目）

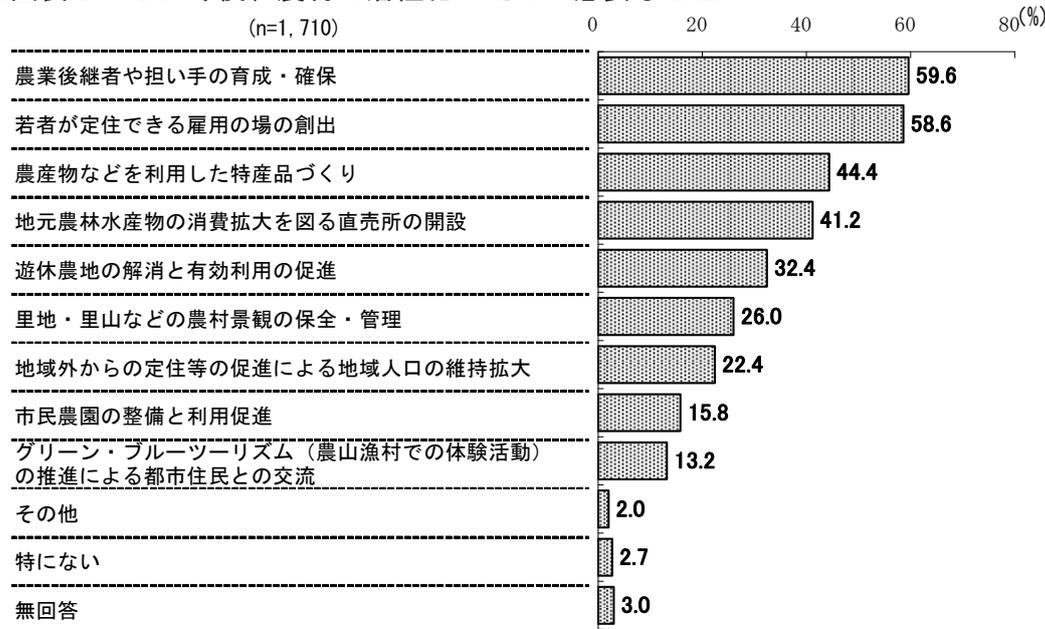


(3) 今後、農村の活性化のために必要なこと

◇「農業後継者や担い手の育成・確保」が約6割。

問33 あなたは、今後、農村を活性化していくためには、どのようなことに力を入れたら良いと思いますか。(〇はいくつでも)

<図表8-5> 今後、農村の活性化のために必要なこと



今後、農村の活性化のために必要なことを聞いたところ、「農業後継者や担い手の育成・確保」(59.6%)、「若者が定住できる雇用の場の創出」(58.6%)がそれぞれ約6割で他に比べ高い。ついで、「農産物などを利用した特産品づくり」(44.4%)が4割台半ばである。(図表8-5)

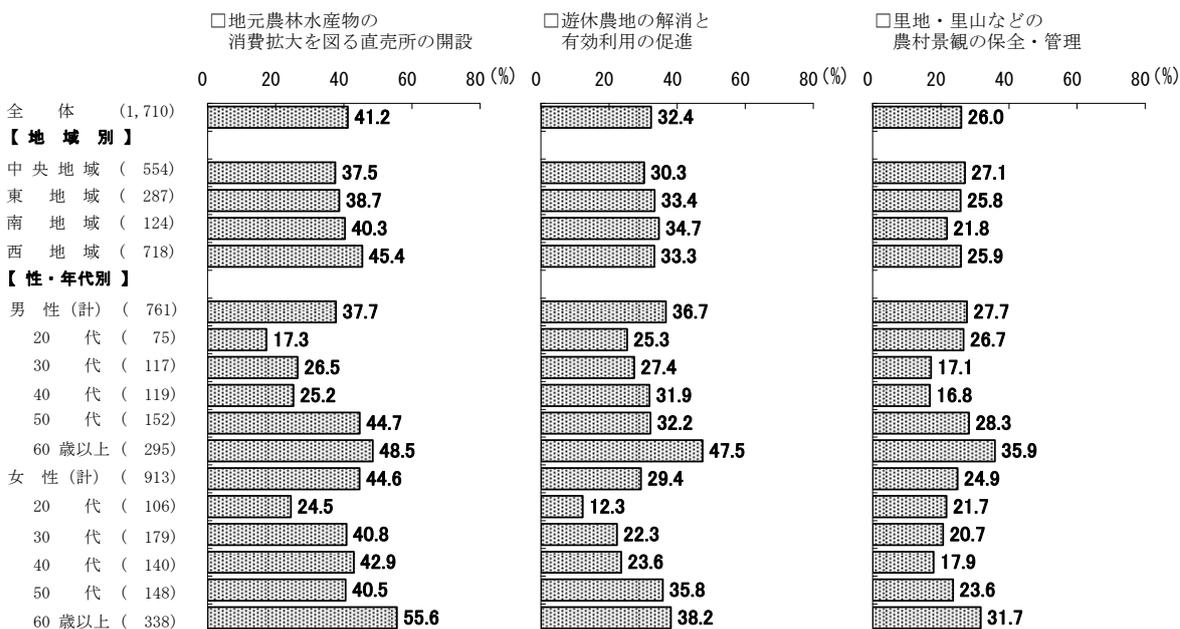
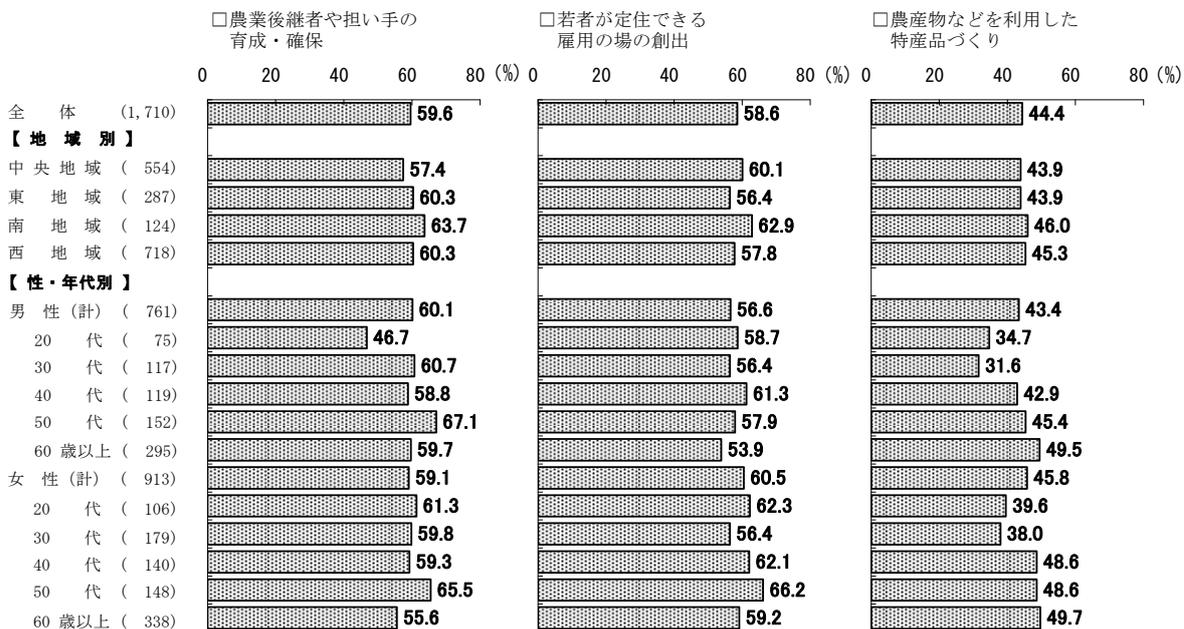
【地域別】

「農業後継者や担い手の育成・確保」、「若者が定住できる雇用の場の創出」はそれぞれ“南地域”(63.7%)で6割台半ば、(62.9%)6割を超えて他の年代に比べて高い。「農産物などを利用した特産品づくり」に関しては、地域別に大きな差はみられない。(図表8-6)

【性・年代別】

「農業後継者や担い手の育成・確保」は、男性の50代(67.1%)で約7割、女性の50代(65.5%)で6割台半ばとなっており他の年代に比べて高くなっている。「若者が定住できる雇用の場の創出」は、男性の40代(61.3%)で6割を超えており、女性の50代(66.2%)で6割台半ばとなっている。(図表8-6)

<図表 8-6> 今後、農村の活性化のために必要なこと／地域別、性・年代別（上位 6 項目）



問 「農村地域の活性化について」やここまでの質問（問31～問33）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、163人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

■「農村地域の活性化について」の自由回答（抜粋）

- 夫の実家は農業を営んでいるが、継ぐ予定はない。他人事では、「後継者が」と軽く言えるだろうが、当事者には簡単な問題ではない。（女性・20代・西地域）
- 産地労働を体験する機会がない。サラリーマンでも参加できる形態があれば、拡大できて広範な意見や考え方を知ることができる。参加する初動をバックアップする人が欲しい。（男性・60歳以上・西地域）
- 千葉県の農村地域の現状が、なかなか都市部には伝わってこないなあと思います。広報の方法を検討してもらいたいです。（女性・30代・西地域）
- 台風など大雨の時の、田に水が貯まる事は、大変大きな調節池の役割をしていると思う。田圃は米を作るだけでなく、自然災害からの役目をかなり、最近は大きいと思う。（男性・60歳以上・中央地域）
- 農業の会社化、農地の機械化による生産と自然的作物の集約化。農業の発展には人材と農業の工場化のような生産、これも農地保有者と国と人材の和合が…。失業者をなくす為にも…。（無回答・無回答・中央地域）
- 農産物の直売所では食べ物だけではなく、手作り商品など（木材を使ったイスやかごなど）、今の時代に合うデザインなどで取り扱っていただけるとうれしい。（男性・40代・中央地域）
- なるべく農産物は外国からの輸入に頼らず少々高くても日本のものを食べるようにしたいと思います。（女性・60歳以上・西地域）
- 農業をやりたいと思う若い人達ができるように、農業を世襲ではなく、誰でもできるようにしてほしい。（女性・40代・西地域）
- 休耕田などの荒れた土地が目立つので、自由に農業に参画できるようにする。周囲の林も手入れされていない所が目立つので、金をかけて整備する。（男性・30代・東地域）
- 人を集めれば環境や伝統は失われる可能性が高く、人が離れていけば維持が困難になってしまう。その調和が難しいと考えます。（男性・20代・西地域）